

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	社会福祉法人パートナー ハートの家	評価実施年月日	平成19年11月22日
評価実施構成員氏名	鈴木・加藤・桜井・山本・佐橋・押切・佐藤・菊池		
記録者氏名	佐久間久美子	記録年月日	平成19年12月2日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

□ は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	毎日の生活の中で散歩・買い物等の普通の生活の中で関わりを持ちながら地域の中で理念に基づいた地域参加出来る様心がけています。	○	地域の中で私達ができる事、参加させて頂けるサービス等の部分を理念として取組んで行きたい。
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の基づく日々の生活を考える為に玄関・入り口等の見易い場所に掲示しています。	○	折に触れ話し合いながら理解を深めて行きたい。
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居者様の御家族とは、話しあう事が有るが、地域に対してはまだまだ発信する場所さえ無い状態である。	○	御家族様とは、話会う機会も多く理解していただく事も多々有りますが、地域に付いては極御近所のための付き合いとなって居りますので、今後定期的な地域推進会議を開催して行き地域に密着した生活ができる様にして行きたい。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内で行なう消防訓練等に参加させて頂いています。		ホームに入居しております方々の能力にあった町内の行事に参加させて頂くように町内会長等のお力をお借りしながら取り組んで行きたい。
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	御近所にお住まいの御夫婦との付き合いの中で、雪掻き・ベットのずり落ち等の介助や声がけ(様子観察)等の関わりさせて頂いています。	○	今後もホーム内の全ての職員ができる事への参加などを含め努力をして行きたい。
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	御近所にお住まいの御夫婦との付き合いの中で、雪掻き・ベットのずり落ち等の介助や声がけ(様子観察)等の関わりさせて頂いています。	○	今後もホーム内の全ての職員ができる事への参加などを含め努力をして行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	出来ていなく、やっと2回目が終わりに今後定期的に取り組む準備が出来ました。	○	参加できる事・ホームの行事に参加して頂く事等今後推進会議の中で発信していきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来ていなく、やっと2回目が終わりに今後定期的に取り組む準備が出来ました。	○	参加できる事・ホームの行事に参加して頂く事等今後推進会議の中で発信していきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会参加等による、成年後見人制度や、権利擁護事業に付いて学ぶ機会を設けている		今後も職員全員が制度の内容やなぜ必要なのか理解してもらう為に研修会参加を呼び明けて行きたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修やシンポジウム等の二より高齢者虐待防止関連法に付いてより深く学ぶ機会を設け、防止に努めている。		高齢者虐待防止関連法に関する資料を配置し職員がその内容に付いて注意を払い防止に努めている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様のご家族と面談を行なう時間を作り常に説明、話し合い理解を得ている。又来訪できないご家族には電話、文書等で理解・納得を図っている。		研修やシンポジウム等の二より高齢者虐待防止関連法に付いてより深く学ぶ機会を設け、防止に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者様と御家族様が好きな事がいえる様な環境作り心がけている。		不満や苦情・要求等意見箱を入居者様御家族様に説舞見え易い場所に設置している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態は定期受診及び変化時にはその都度電話報告をしている。又変化が無い場合においても来訪時には必ず報告している。金銭管理に付いても必ず報告し、その時々については、事前に報告許可を貰っている。職員の移動等に付いては月1回のハート便にて報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関の見やすい場所に苦情等に関するポスターや契約時にも説明している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に職員から意見や提案を聞く機会を(月1回)設けている。意見等に付いては管理者会議に図り経営者に伝えている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて対応出来る様な勤務の調整や入居者様の状況に合わせた対応を出来る様にしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動や退職した場合は入居者様への心の負担(ダメージ)が最小になる様努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修会への参加を積極的に取り入れスキルアップを図っている。ホーム内でも定期的に勉強会を行い、又法人内でも年3回～4回の研修が有る。(法人全体)</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同区内に有るグループホームの集まり等を通してお互いに情報交換や意見交換を交わしサービスの質の向上図っている。</p>	<p>○ 現在東区のグループホームで他ホーム訪問を始めている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームの確保・他職員との交流の場の確保・希望者の為の運動(フットサル)の確保を行なっている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修への参加・資格習得等のための支援を積極的に行なっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>日頃から入居者様が困ったり、不安に思っている事が無いか、会話等の中から感じ取りなるべく早く対応出来る様に心がけています。</p>	<p>○ その都度欲話を聞いたり、心を寄り添わせる様にして行きたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>御家族の来訪時には必ず声がけし気楽にお話頂ける様努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容により、より必要としている支援や提案を考慮し他のサービス利用も対応		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の納得とご家族からの情報を得て安心できる環境作りを支援、出来るだけ短期でサービス計画を変更しながら支えて行くよう心がける。	○	サービス変更時等必ずご家族と相談
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人が出来る事(編み物・畑仕事・草花の栽培・等)は、入居様に指導して頂く等の場を設けて支えあう関係作りを築いています。	○	畑の収穫・花々の植え替え・散歩時や買い物等スタッフと一緒に楽しんでいます。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームの行事に出来るだけ参加して頂き一緒に楽しんで頂ける様にしています。	○	ホームの行事(夏祭り・一泊温泉旅行・お花見・クリスマス・等)後家族が気楽に参加し易い様に曜日等を考慮しスタッフとの交流の場にも成っております。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今迄の生活を把握し、よりよい関係の継続や向上を支援して行ける様努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	御家族・友人・等の来訪や手紙電話連絡等を取り入れている。馴染みのお店・場所等ご家族と協力しながら行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士がの助け合いや支え合いが出来る様また孤立する事無く生活が送れる様に日常的に行なっております。	○	掃除・洗濯・買い物・炊事等お互いが声掛け合ったりしております。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなった方の御家族が退所後もホームを気にかけて御電話等頂いたり、御子様の近くに入所なさった方が娘さんと遊びに来て下さったりと付き合いは大事にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人の思いや希望を聞きその都度対応しています。	○	必要な物をスタッフ同伴で買い物・本や趣向品の希望聞き入れ等
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様の生活歴や背景大切な経験や大事な物を御本人・御家族等から情報を得てケアサービス計画に活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様個人々のペースに合わせた過ごし方の中で、心身の状態の見極め・変化等を見逃さない様日誌・ケア計画書を記録、スタッフ全員が周知する様申し送りノートも活用しております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回の検討会議・変更時のミニ検討会議を行いケア計画を作成御家族に説明しながら希望も聞き入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヵ月・3ヵ月・6ヵ月・その都度(入院・怪我等)に見直しを行なってます。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を日誌に記入しています。その他申し送りノートとを活用しています。		毎日実践した介護サービスを記入しております。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア月4回(ダンス)を取り入れその他敬老の日・クリスマス等(フラダンス)等を取り入れてます。避難訓練・救急救命講習でかかわりを持っております。又地域で開催される避難訓練等に参加させて頂いてます。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。			
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じて包括支援センターの方々にも参加委員会の一員として今後共協働して行きたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	近隣に係り付け医が居り定期受診している。緊急時対応して頂け通院不能の場合往診も視野に入れた対応を下さっております。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医と定期受診で関係を築いております。又ホームでの生活を職員が報告したり相談させて頂いたり、御本人が御自分で話しており先生から適切なアドバイスを頂いております。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護等の利用は有りませんが、急変時に対応して下さる医療機関が確保されております。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の場合医療機関・御家族と常に連携を取りながら一日も早い退院に向け御本人もご家族も安心して入院・退院が出来る様話し合っています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約時に重度化した場合やターミナルに向けた対応や御家族様の希望・要望を話し合っています。	○	御家族様に折に触れ入居者様の状態(健康)を含め相談しております。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者様の状況により御家族・御本人の思いを大切に係り付け医・御家族・ホーム等で常に話し合い担当医から説明を受けれるように取り組んでいる。	○	担当医のほうは、御家族様に現在の状況など説明出来る様連携しやすい状況をもっと相談していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>十分な情報収集を行い御家族の協力も得ながら、ダメージを極力不安の無いように努めています。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>本人のプライドやプライバシーを傷つけないような言葉掛けや対応に配慮している。</p>	○	<p>スタッフ1人1人が個人情報保護法に基づいて外部に情報が漏れないよう行なっている。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々に合わせた声がけ、意思表示の難しい方は表情を読み取る等、出来るだけ本人の意思を大事に買い物、お金の支払い等の支援をしています。</p>	○	
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>御本人のリズムや生活の流れ得意・不得意を理解し支援してます。</p>	○	<p>1人1人が本当の希望が言えたり、表したり出来て其れを感じてケア出来る様に支援したい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>基本的に自分の気に入った洋服を着て頂くようにしています。美容室等はそれぞれ近所や訪問で好みにカットやパーマをかけております。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理・片付け等を入居者様と一緒にを行い、同じテーブルで楽しく食事が出来る様になっています。又菜園で収穫した野菜等を材料に使い、楽しいと実感していただいています。</p>		<p>自分達で育てた野菜等沢山食べてくれます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望により献立の中に取り入れています。又好きな飲み物など自分で買いに行ったりしております。	○	好きな物(糖尿・心臓病)に関係の無い方に限りませんが、居室で食べる物等買ってきております。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンに合わせて誘導・声かけを必要に応じて行い出来るだけ日中はパットなどの使用も少なくしております。	○	今後もパット・ナプキン等を利用オムツの使用は極力しないような努力をして行きます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯・入浴時間等入居者様に合わせた(体調など考慮)支援を行っております。	○	以前行なっておりました夜間入浴を早く復帰させていきたいと考えております。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日常的に決まったスケジュールは無くそれぞれが体調に合わせた休息をしている。又日中の活動により夜間不眠も見られて無い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の力を生かせるよう(得意な物)等をより生かせるよう役割を持って頂いています。(食事作り・後片づけ・草花の水遣り・新聞取り・小動物の世話等)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る方には個人で使用して頂いており、又ご家族よりお金を預っている方に対しては、ご家族と事前に相談気楽に買い物等に使用出来る様支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の体調や天候により(散歩・ホームの買い物・自分の買い物)等希望に応じた支援をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	地域のイベントや行事、年1回の温泉一泊旅行・お花見等御家族様の参加も年々増えてきて居ります。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話・手紙を出しております。手紙等の代筆支援等しながら遠いお孫さん達とも関わり持っていていただきます。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室でご家族や友人と気兼ねなく過ごせるよう心がけて居ります。又食事時・おやつ時には、ご一緒にいただいてもらえる様支援しております。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員に研修会に出席したスタッフが勉強等で伝えていくようにしております。又ミーティング等で話し合いも行なって居ります。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は常に開放してあり夜間のみ(21時～翌朝6時)まで施錠して有ります。但し御家族の事情等により施錠の時間を変更して対応しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者様の居場所の確認がさり気無く出来る様に、スタッフ全員が常に意識の中に置くようにして行動しています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々に合わせ保管・管理する物を分けております。	○	洗剤・漂白剤・針・はさみ・ライター・爪きり当の使用時は必ず職員が見守って使用して頂いています。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々の様子・其の日の体調を記録(日誌他)職員全員が理解し事故防止に努めています。		誤薬・飲み忘れ・誤飲を防ぐため二回以上の確認・日にちの確認・朝・昼・夜の的確な服用を支援
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	外部研修や普通救命講習に参加し参加したスタッフより勉強会等で職員全員に伝えて居ります。又緊急時のマニュアルが有り職員は熟知する様心掛けて居ます。	○	職員が緊急時にも落ち着いて行動出来る様訓練・研修の場を定期的に行なう故意とが必要。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を受け避難訓練を行なっている。毎年同じ場所を提供して頂いている。消火器の使用方も交代で訓練指導を受けている。入居者様も一緒に火事の怖さ等のビデオを鑑賞している。火災報知器・災害ホットラインの設置	○	今後運営推進会議等で地域の協力を頂ける様にして行きたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居者様お1人お1人のリスクマネジメントを作成ご家族と話し合っています。又変化時には検討会議等で決まった事に関してもご家族と話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ間の連携を徹底し、少しでも通常と様子に変化が見られた場合早急にバイタルチェックを行い管理者に報告し指示を仰ぐ。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋のコピーを個人ファイル・投薬ファイルしスタッフが内容を直把握出来るようにしている。処方変更時等の場合も同様又申し送り等でも読んだスタッフは確認印をする様にしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食材の工夫・十分な水分摂取・適度な運動等で自然な排便が出来る様取り組んでいる。又個々の排泄表を使用し排便の確認をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後個々の能力に応じた口腔ケアを行なっている。(介助・自力・声がけ)等		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量・水分量等のチェックと記録を行い個々の味・好き嫌いを把握調理方等を常に考慮している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について細かくマニュアルを作成し、予防対策に努めている。感染予防の為に消毒・うがい・手洗いを義務付けている。ホーム全員が予防接種を行なってます。法人主催の研修会・市主催の研修会等に参加		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗い・うがい・消毒等衛生管理マニュアルを用いて食中毒予防に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気作りを心掛けている(玄関に花を活け・花壇・菜園)季節を感じられる様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節・行事等の写真を飾る小さなスペースにその時々写真を取り替え飾っているテーブルには季節の花を飾り四季を感じられる様に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間に椅子とテーブルを置き一人で過ごしたり仲の良い入居者様同士で音楽を聴いたり出来る様にしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は使い慣れた家具やお気に入りの物を持ち込み快適に過ごせる様に工夫している防災カーテン等も各自好みの物を使用している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共有スペースには温度計・湿度計を設置し適切な温度・湿度を保つようにしている。各自居室には温度計を設置、居室と居間の温後差に気を配って居ります。入居者様の過ごしやすい温度にも気を配り温度調整をしております。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行時障害になるような物は最小限度とし、手すりを設置し椅子等も高さを調節したり肘つき等個々に応じて自立した生活が送れるようにしています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ等の表示・ドアの表札等の工夫で分かり易く混乱が生じない様にしている。個々の能力に応じた環境作りに努めています。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇の前に椅子を置けるスペースが十分あり季節ごとの花々を見たり、自分達で作った野菜を眺めながらお茶を飲んだり出来る様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	職員は日々のコミュニケーションやアセスメントの中から入居者様の思いや願い、意向を見つけ出し、サービスに結び付けている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	其の日の予定(通院・入浴等)によって時間帯は様々あるが、理念に基づいてゆったりと過ごす時間・場面に置いては常に意識しており、コーヒーを飲みながら・おやつを食べながら等・一緒にゆったりと過ごす場面は毎日作っている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	職員は入居者様1人1人の生活ベースを把握しており、それを保てるよう見守り支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	入居者様1人1人のADLやライフヒストリーを基に其の人らしく生きる姿を発揮出来るよう支援する事により、生き生き表情や姿が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	買い物や御家族との外出(外泊)等その都度希望に沿って外出している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	入居者一人一人の担当医(病院)と連携やその指示の基健康管理や安全な生活を維持している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	病気や怪我・買い物や外出等、様々な状況に対し、その都度可能な支援・対応を実施安全な暮らしへと結びつけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	訪問時には要望や意見などに耳を傾けるようにしており、御家族様の心配や不安の解消等の支援も視野に入れ、信頼関係作りをしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	御家族様や友人、近隣の知人等が訪れている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>運営推進会議を通じ、地域近隣の方々や民生員の方々に少しずつではあるがホームの理解や協力体制がふえつつ有る。</p>
98	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>運営推進会議を通じ、地域近隣の方々や民生員の方々に少しずつではあるがホームの理解や協力体制がふえつつ有る。</p>
99	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>一人一人が身に着けたスキルや能力個性等を発揮しながらやりがいを持って働いている。</p>
100	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>食事・入浴等の日常生活から個別ケア、行事の催しなどにおける楽しみ又介護計画における個別なケアサービスに対しても、入居者様のニーズを掴み対応しており、おおむね満足されている様に見受けられます。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

出来るだけ自分の足で歩く事、トイレで排泄する事が出来る様日々取り組んでいる。

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点

等を自由記載)入居者様の意思を大切に(但し出来ない事も有りますが)生きる意欲を持って生活出来る様、最後まで自分の足で歩き、自分の口から食事を摂取でき、綺麗・美味しい・楽しい等の感情を大切にしていける様に頑張っております。それぞれが好きなように自己主張が出来るホームでありたいと思っております。